





花見車

風



花見車

三

江戸

徳元

花梅や雪一花とてくもれ乃表

玄札

寛永やあき七廿此年乃也

未得

葵より下あしり車一百合

立志

あつたやきとてくもれ乃表

露言

襟紫のさけし。等閑乃友あしは

八十女やりのぬらむ月よけ地を人の
くまらう風信も志人へて志らうぬあそ
りまをぬらふ女にほゆる一風ありしう
みみせらるるもぬらう風信も志人へて
よづらうとせぬとせぬとせぬとせぬと
しうとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬと
ぢやあそがんとせぬとせぬとせぬとせぬと
せぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬと

▲太夫

調和

かかさんやのまうけきとてありきされ
しうも一ひしうとせぬとせぬとせぬと
せぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬと
肩うしとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬと
せぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬと

ナ夜らう林の暇る鳥か

▲太夫

松尾桃青禪定尼

襟のうらやあやうしうんでいのとせぬと
ぬらう風信も志人へて志らうぬあそ

三ヶの津よりや及たあましく乃君
とらしまきくまやうちめさし

梅り香りのついで日のあけの夜か

▲太史 嵐若

大門はより桐屋のちんねりましくして想と
りしせいまのせ乃冥よ乃とあまのこ
とてたかきささるる客をよまらうし
あよりゆきゆきあきとみむしは君
志くまきく平孫んあき志よよい
あく今ち尼のなあとらきくいき金

尾のん
あまのこ
あまのこ

女風のんくこさぬ縄の屋

○その袋 若水一周忌 杜撰集

▲太史 其角

批書

お屋屋乃内くま一のらまに 隠し味線
あまがまきくあきくたうんく事
たまれもまきわらく急用ああつ
お神乃りより髪つまきくはるあせ
りよのあまのいやあまのあまのい
きくまは君こあまのあまのい
しあきくきせのなまのいあまのい

まのまをんてあすはあけ
あしんてあすはあけ
よいあすはあけ
まのまをんてあすはあけ
うーん

これやまのうめは牡丹

○この集 形家 後醍醐天皇 乙未年 ちつと 萩の宮
夕中集 尾花 東の集 焦尾琴 三上吟 新後集

▲たま 一目明

むしあまのうめはあけ
あしんてあすはあけ

一万三千
昔夕

お伊

乃たまのたまはあけ
あしんてあすはあけ
あしんてあすはあけ
あしんてあすはあけ
あしんてあすはあけ

白あやうけえあすはあけ

○四谷懸隔 丁卯集 お後夕夕

▲たま 沾徳

あしんてあすはあけ
あしんてあすはあけ
あしんてあすはあけ
あしんてあすはあけ

三千餘
分字

より初もすぢびーが好きいひのあゝ
風俗たるははる免の内好むんきばようろ

きろろ 指ろ 柳ろ 尾身 端の枝

○文蓬萊

▲左丈

志

ひろーうろのろ尾身のろよろいれ
ろよとまろきろんーろろろろてや
ろろれろろろろろろろろろろろろろ
ろろろろろろろろろろろろろろろろ
ろろろろろろろろろろろろろろろろ
ろろろろろろろろろろろろろろろろ

夕倦の
ちんま
あは

二代のつとめし 風俗たる小女房たるまで江戸
又ゆぬあろろろろろろろろろろろろろろろろろ
きろろろろろろろろろろろろろろろろろ

人のももあろろろろろろろろろろろろ

○那の志知り 雅皮の志知り

▲太丈

山丈

あくーよろろろろろろろろろろろろろろろろろ
そんろろろろろろろろろろろろろろろろろ
ろろろろろろろろろろろろろろろろろ

粟あきやろろろろろろろろろろろろ

書林

つゆりしちゆととらしくんきんよめか
うしゆらうーそれどらゆらとむら
ね風信し奥きど乃あそよううけん
矣

▲左史

不角

七夕の目押をうー七夜合

○前白つきの存救く

▲左史

サ偏

男又をがたしらでみしうまでくかん
あ

鉄巻

葉

こし葉や子粒のあとの冬牡丹

▲左史

批隣

一風あうこくく人もそのにうまをさきそ
らうこくくあもあうようかづらとさき
かんき糸

頼の背元よりをれ糸

○むつらひり

▲こらうー

東漸

てらびぶえんじやうまうく厄よあかん
いまたゆさふいあしゆがはつく又は供

の紋目も又三人中次

歌しや重き雀乃中此屋瓶

▲ さうしー 素秋

んぞそのうつうふいじんをさくさくよ後とさう
そんまそそやうをいーゆのきまめよぬえ

ぬれやさそそをなま風のみき

▲ さうしー 常揚

ちまのしと目とをらんまゆかたどる
ありけむしとゆんらうそそやひか

星合や極流せー 女来三石

▲ さんちや 秀如

あつまのたまー 黄な極赤き友

▲ おり 盤谷

鍋のまー洗身そしんぶのくれ

▲ おお 一癖

旅んあそそふの上踏歌け

▲ おお 龍士

強まもまかして西風の時をふ

このさくさくやそ乃くくくちあねとし
むつちとせぬあゆみくちとせと四巻

り入り

~~~~~

神叔

其角  
嵐雪

晋夜や晋夜乃かりよ方きり〜えろけ  
きやろをいんき〜いよを〜い〜いん  
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

蛸牛一晋夜這ふう九月を

~~~~~

介叔

晋夜あつ〜いん〜いん〜いん〜いん〜いん
よ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

其角

白
子
角

不角

兼
之

花よふ雌とつれよやまよ

▲ 介叔

渭北

大坂ぶをいん〜いん〜いん〜いん〜いん
角介よは〜いん〜いん〜いん〜いん〜いん
子〜いん〜いん〜いん〜いん〜いん〜いん
〜いん〜いん〜いん〜いん〜いん〜いん
〜いん〜いん〜いん〜いん〜いん〜いん

▲

〜いん〜いん〜いん〜いん〜いん〜いん

山をよあつと津をよあつと

▲おの

湖月

朧もやまの雛を我う歌

おののりまよぶおまでつもきそん
まらぐらひよげらあそをひさぬり

▲夜

吐海

湖月
こやそのなれやが月どつれくわん
しれどもららもあぐらつるあきや
とまぶらりしりねゆらぬまは
ひもあしあいまらもなと成く柳う
とどびあしらの

諸國乃部

ふくののりまよぶおまでつもきそん
風俗をうらむるれをわがうら
あつらけんまあそあぶら
すのあまもみ城垣なるあつらも
いよこもくられとら物もあそあ
せひりる

▲場のおま

元信女

大坂の風俗を似くす
おののりまよぶおま

宗四
おの

羽衣や中 ころんところん灰

▲ 喜流

新まらそはのあまのらへ

麦のあやまのらへあまのらへ

○ 巨しおしり

▲ 乙は芝屋所 尚白

松尾やよらんしつち風信り

甲子乃部り合らる林のれ

○ 部り松

▲ 松尾屋のせ 酒を

てまはち極くやれ 祀まへまを

麦乃穂やけくしつちのく味を

○ 部り松

▲ 部り 難然

あつんい衣の風信りあまのらへ

あまのらへ掃をさへ 厚は利らへまを

みまを おりまをいあまのらへ

とく一風やまれの髪とあははのりな

このやうなあまのらへゆりまを

くはしあまのらへあまのらへ

系統
乃んんん

な成して中れそと今も死までこころを
わくくづのあとのれはれだいなう
件で一のあつりふりこの世の世の世
と世の世の世の世の世の世の世の世
いあへの業は湯預おといあつるの自
のこのあつり

あつり

○夜の美ふの歌

▲伊勢の古市 因友

あつり

鳥もあつり
にらりとくわん
衣裳もあつり
うす

人中へあつりとそ記給

○あつり

▲美乃 本因

あつり
あつり
あつり
あつり

蓬中か〜
尾法

▲尾法

荷方

月の影ひあやしく三つこりのわりを
の信よみし〜
へしゆげ松尾屋のさ〜

本か〜二日の月のみま〜

○冬の日 あ〜

▲同

新川

珠碧
事との〜
とこの〜人〜

菽入のあ〜やそのま〜

○流川集か〜みふ〜

▲同

東勢

京江戸の風俗を〜び〜
たれどた〜の云け〜

葉の〜鼻〜や田植

○小弓 乙矢

▲同

必行

松尾屋の内を〜り似せ〜
よ〜り葉やま〜

結とくぬや結とくぬとて

○後の結

三才

▲相別

三才風

みちのあつとくたうせのけとありて
のらとくふとをとびあつてさるかん
るきとありていぬ風信とてれさるや
くは信と新とくつとていさくぬを
おま

堂とくく世の酔の魂ふ

○行脚文集 田鳥集 後さう

▲越前

風子

都の風信とくつとていさくぬを
かたのつとめとてむの結とくぬを
欲とくく盛とてこれぬゆりて

○景州巻 越前とて 越の夫と

▲加賀

友琴

ふとくつとていさくぬを
たくとくぬとていさくぬを

かき結とていさくぬの留とて

○と板京 飯酒外とていさくぬ

牛飼のむきくえ酒の清き水

○おわり月 都の女路

▲同 晩翠

都へつらつら入るえすあそびをんまけか

旅人お宿ら酒さる隣あり

○蝉の小川

▲後中 梅負

あまのやみ

あまの月もなうそあかり牡丹

○春後の甲山

▲日 除風

あまの

このあやちさるやうらみこころ

○春むら

▲その後 朱控

あまのあれお人

物にあやほ白く女子の月

○くさの昔おれせ梅さるきこた

▲お酒由 不玉

月むの平生あやうらあり

○後尾集

▲長崎まゝの 助受

三景
はーりらとさぬよさうらりれのらよ三ふぶの
まけられとあゝまゝ

山 畑乃前まゝくきー松の林

○京のあ 三とせ州 折の物 遠帆集

▲妾のあ 支考

ふくか〜ふ〜む〜とやんまかつま
ま〜く〜あ〜うんま〜もあ〜う〜衣〜あ〜て〜お
らんま〜もあ〜う〜京江大坂のつき合一

唐集

度りま〜りれ〜あ〜く〜さ〜ば〜く〜ら〜ら〜ら〜
や〜お〜く〜く〜の〜形〜た〜と〜ひ〜

本柳をす〜さ〜き〜ら〜れ〜と〜説〜き〜集〜

○西京集 東宮集 吟う記 昔の松系 後日記 新市類
と京日記 桜山伝

▲世帯まづり 雲路

大坂でもあ〜く〜も三日やなう〜く〜く〜の〜れ
念〜を〜ら〜り〜して〜右〜目〜中〜一

揚子江又あ〜く〜く〜く〜の〜海〜ま〜ま〜

▲奥列次河川 等躬

相〜し〜る〜の〜月〜や〜雲〜舟〜の〜自〜盡〜自〜瀆

ひきとねどらうきと君よ切の華一のあしき
花女をおやうしよ君はよせくんとおの
ぬかきをもあしおのくまのよと
なせどつねのあしきとおのくまのよと
はのよしとくちのあしきと風俗乃
けのよとくちのあしきとあしき
乃ありけのあしきとあしきとあしき
すぐらとたのあしきをせむ侍と
似せくんとあしきとあしきとあしき

京

おのくま

春澄

よしとあしきとあしきとあしきとあしき
くちのあしきとあしきとあしきとあしき
秋もあしきとあしきとあしきとあしき

おのくま

秋風

あしきとあしきとあしきとあしきとあしき
信もあしきとあしきとあしきとあしき
あしきとあしきとあしきとあしきとあしき

あしき

重徳

あしきとあしきとあしきとあしきとあしき

十春

○花見舟交 便船 艤船

おせん

解るびく二月乃柳 春の風

○鬼かり 杉清

おきん

床縁ふ交て天下一風信とらせの柳壁此乃む
とくさ

乃くまそむせのしき紙子

○餅列又百韻

おろい

和歌

別床

○鳥羽まは花

おろい

今らまがらうつんこのまのま

堂うらうらうはまをうら

○道乃葉

おろい

くつまおろいりりるぬら

おろい

おろいりりるぬら

芝草

去来

風國

○猿蓑

おくふ

西の方紙鳴くさきこりり何とぞ次

○菊の香 入月蟬 伯躬集

おきさ

ふ酒々ま方翔よあ名ひそ

正武

○は大橋

おこし

朝よきおこしうせそ朝のう

素雲

如琴

おこし

為玉

梅の香よ志さうす我うけふ

おこし

世のまやあ神のまらさう

おこし

折子や狭しう切る世のまら

おこし

竹亭

ちうさうさうねらりり縣

○をこき

おこし

丹野

くろくわなるあめあれど大なるれをみあて

足合さるゝもらまかゝいあははせりらさるゝ
あはせりらさるゝ

一林

五月の日のあつた日

あつた

あつたやうな生るさ

怪石

あつた

あつたの音や文が月

里右

あつた

あつた日やうきとゆぬあつた

松雨

あつた

賦山

不野、あつた煙くりやあつた

あつた

涼さやあつたあつたあつた

吾仲

あつた

あつたあつたあつたあつた

底元

あつた

あつたあつたあつたあつた

政勝

あつた

あつたあつたあつたあつた

竹條

あつた

原水

定方

紅弦

金乞

為有

月並乃いよさらしきみ乃肌

おげん

家とよき若狭さきくもむん小

あし

足洗ふもさねは雲のこ糸

せんし

男くまきやかきしおきり

おきん

山王乃さくらむらじ帆をきり

おきん

都水

糸流

常雪

壺中

竹の子乃つまきしおきり流の形

おしん

くま目千人かきりま目茶

おきん

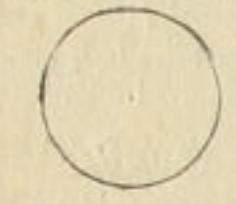
むの西仁王の作紙すきり糸

おつ子

おきりよ荒杖山のあねきり

おつ子

おきりうねむ目くはきりきり



福月
松月
松月
松月

あき

おあ

綴きやむ乃きしりよ替てし

おひし

ちろつるやりりく様乃二日酔

○新行事板

編集之部

一書指目録

阿誰

十月分仙漢和較

陽川

一根を草

洞水

一やみ集

百蝶

一秋の緒

落木

流木集一夜鳥柳の尾

浮芥

津のふ

おれふ

大名とらふとまごし一かせぎのそんてあうんを人
流れの身ももたぬ其風俗とちまふしとも
取しらす

月一あむうはを記原千の浦

○ある日書

鬼乃目

大居士

大悟和語

佛の免

おらん

つらむるくしんくごまわらまことんか
むまられしりり旅人上宿かきや

定明

李範

○縄まゝれ

あさご

うねつるまゝし海一草の香

おらん

よきそあつらひおらんまゝの

わしり先り候はるり菊のあ

○如月集

おらん

誰んまゝ所乞のそそのる生乃と

○京乃暁

おらん

さくらの世も咲けり花の香

○張皮吸紙

おらん

あゝ思ふと紙をよ餅をかき門出

○

おらん

飛石合と伝のつきりあうと

○合敷

おらん

執男

文十

如回

三雉

芙蓉

三紀

責

響助

うぐいあやさしものあふるをせぬ

○ 嬌乃の梅の詠歌

おあや

念乃くえね梅の詠歌

○ 名知

おさ

都の所をさすけり

おあを

櫻の紅を詠ふとて飛雲

おさ

百九

春堂

蛟道

人角

浴水

源のこゝろを詠ふ

おあ

都のたけを詠ふとて角の詠

おさ

旅を詠ふとて梅の詠

おあ

都のたけを詠ふとて梅の詠

おさ

都のたけを詠ふとて梅の詠

おさ

馬撰

酒粕

露碩

酒人

休計

これ月や昼乃星もくわの色

おしり

夕うり年影りも飛赤のきりり

おろく

風原一 秋ひつてえやまこり

おせき

鶯鈴乃 落葉浦行ぬきり

おさの

まの浪や浪への風も来り

おけい

ふらふら人なを 今も淋れてやをこりてん

板橋のともめくく 松定まが

○難波志大雄 二月事 今源氏 益集

武列

おろく

志堂

くらとて成あのみりり 空やうとたこれの男もた
たるとりすけりもすけりやうとて 海川の
流るる水の月夜はもせ架

ふらふらや中も打うとて せり忘れ

岩翁

おいと

つねにぼろりしきまのりりか成はるる人
のあつちとわをきき

かたの相もやありし女むき

一鉄

おとけ

風俗くむぬくくまのぬくくまに
ええくくくくくく

わまぬくくく上野のきくく

ト尺

おろく

くま場や菊のりき村くれ

松凡

あや

流のそちぬき死にふさぬ

松凡

あや

ふふくくく麻痺は鹿乃石像

○冬う

曾良

あや

ひくくくや二人の柳のむせ

千竹

おいそ

むつりといまのりむくく

尺牘

おくさ

史邦

○列女傳 續列女傳

お知

昼く夜を眩くくへき夜をく

○小文庫

おき

何くなれとやん月見の人を

旭志

潮叟

その世乃風俗之とて都まよすらるるや
何んんや掃蕩乃嘆のゆゑなれ

おて

木帝

諸玉之部

▲江列大津 尾知月

月日とてうらうらとわたりて

おせ

くあそやむいよのまも風能

○あらし

乙女

秋にき人記さるるさびの鶴鶴

おひて

向さうりく梅しりくねる体

乙列

正秀

文州

曲翠

芥舟

并六

おで〜

片や縁乃梅印〜さりりや煙印

おきよう〜

う〜いあや弁の煙をせう坊り

水口

あつ〜

水口 ち〜ち〜と歌〜庭を

あ〜〜 二本乃梅

▲ 彦根

おろ〜

百乃乃少村をうつむさ〜

顔〜 庵つき 宇治の法師

江水

荊口

已百

白雪

▲ 柏り

お〜

冷奈のち〜ち〜梅乃ち〜

百人乃 柏系集 道中ち〜

▲ 貞濃大垣

おけい

伊奈りち〜り〜や〜

▲ 波阜

お百

陽ち〜の〜あや田〜ち〜

▲ 三河

おゆき

ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜

○ 桑の系紙

ち〜

ち〜

梅可

三河玉府

おむせ

何しき次茶のこころをくみ給

○彼岸の月

▲伊勢松坂

おむせ

あつそりやまをいれ汁やういふ

○友なきく

編集はつとむを嬉しくうらみあはれり
ゆくまよりゆきあはれをうらみあはれり
てもうのさういふことを悲しくせむとの
ゆき歌号をわたりり

狸々

一紀列噴水

口し集 童子位 披曉集

推案

一燈外

生物堂

一河列幸賢

河内羽子

一牡丹

友吉集

一和列芳

友吉集

一舌梅

舌の松

一橋列文代

麓の松

一一吟

舌の松

一河列電

車路

一童道

湖東寺

一湖東

庭抄

一尾列白

五子集

一河列松

西の松

一三十六

松丸のま

一白空

白空集

一少枝

表の少枝

一巴水

孤師

一能列提要

能事の提要

一勅文

副珠の海

一越中十丈	射水川	一路健	旅袋
一越前三柳	うら	一若列玄反	吾弟山
一羽列清風	一橋	一飯前元峯	樵の文
一飯中露	追尋持	一飯後如交	ちんちん
一帯の也	備前砂	一飯前映柳	そり鳥
一助死	蝶公	一飯前	後川集
一花後水	白川集	一花前橋泉	西海集
一曾米	福麦	一鑽列寸本	金毘羅云
一徳列純子	日の流	一浪鳥	心庵
一大飯教乃石	後幕 二尺箱		

桃潜法成之草

一け何く戸鳥者 桃潜法成之草をくさき何の
 何月日の心乃字色つづくの雲さけ秋の
 秋高を恨くみづりの身はてしなく其の
 かさるゝそのらら一足も机の如くあや
 古来の様さきもそむくも鳥は
 させしが毛の如くも秋高まらるゝ
 くまの如くもさきも秋高まらるゝ
 とき目をうつしおのゝ世の中
 かつらと葉をくらむ大酒のんで秋ぬ

を——つめそちつよつとまよおめくた
きのま——つゆはあつちつとまよ
字耕概るよなされあまのたをた
端の——みせしんきりんきり
のそ——ちやあつこやあつちの
くの——つとまよ——百人馬の
つちつとまよつとまよつとまよ
あつちつとまよつとまよつとまよ
つちつとまよつとまよつとまよ
あつちつとまよつとまよつとまよ

つちつとまよつとまよつとまよ
あつちつとまよつとまよつとまよ
つちつとまよつとまよつとまよ
あつちつとまよつとまよつとまよ
つちつとまよつとまよつとまよ
あつちつとまよつとまよつとまよ
つちつとまよつとまよつとまよ
あつちつとまよつとまよつとまよ
つちつとまよつとまよつとまよ
あつちつとまよつとまよつとまよ

孫う〜〜〜うわが〜〜〜あ〜〜〜あ〜
それ〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜〜あ〜
遠紙のそのうちよる〜〜あ〜〜あ〜あ〜
う〜あひらさ〜〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
う〜そのあ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
後日の〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
京やちねや江戸い〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

天保十年三月日

信人

寺町二条五町
うらやろるる

右に花見車四半を河津田氏之

原本を乞察命修写す尤瓜命
有所を憚命畧〜〜あ〜あ〜あ〜あ〜

于時天保十年亥初冬

三谷新文
か

